

所信表明

本日、開催した臨時議員総会において会頭に再任いただいた。また、総会では、副会頭 6 名と専務理事、常議員、監事を選任した。同じく総会で発表した「ニュー京商ビジョン」を強力に推進できる、充実した役員・議員体制を組むことができた。

本年 5 月、村田前会頭から会頭に推挙していただいてから、約 6 ヶ月間を、本日から始まる 3 年間の準備期間として捉え、今後の京都産業をどのような方向に導いていくのかを、ビジョンとしてまとめる期間としてきた。就任の際、これからは知恵産業の振興が必要であると申し上げたが、なぜ知恵なのか、知恵産業とは何なのか、どのようにして推進していくのか、まずはそのあたりを本所が明確に指し示めすことが重要だと考え、新しいビジョンづくりに着手した。

中小企業が元気なくては、地域の活性化はありえないというのが基本スタンスであり、このビジョンが中小企業にとっての処方箋であるべきだ。

実際に知恵ビジネスを推進していくプレイヤーは、個々の中小企業であり、本所は、あくまでもその方向性を指し示すプロモーター、あるいはさまざまな施策により支援していくサポーターの立場だ。また、ボトムアップ型の会議所運営を目指していくうえで、部会が中心となって活動いただくことが、会議所の活性化には大事だと思う。

このような時期に、京都の経済界を担う一人として、商工会議所事業の中枢に携われることに誇りを持ち、京都を希望と活力溢れる街にするために、精一杯努力したい。

副会頭紹介

6 名の副会頭をご紹介します。

京都銀行・頭取の柏原康夫さん、西陣織工業組合・理事長の渡邊隆夫さん、島津製作所・会長の矢嶋英敏さん、以上の 3 名の方々には留任いただきました。

新たに、副会頭をお願いするのは、京セラ・会長の中村昇さん、ワコールホールディングス・社長の塚本能交さん、キャリアール・インターナショナル・会長の田中田鶴子さん、以上 3 名の方々。

中村さんは、京セラで会長として活躍されている。京都における知恵産業の振興に向けて、これまで培われてこられた経営手腕を大いに発揮していただきたい。

塚本さんは、本所の京都ブランド推進特別委員会の委員長を務められ、京都創造者ハンドブックの編集や、京都創造者大賞の創設など、本所事業に尽力いただいていた。「京都の都市格向上」は、今後も本所が重点的に取り組んでいくテーマなので、副会頭として引き続きご指導いただきたい。

田中さんは、京都市の教育委員長を務められるなど、「教育」に大変な情熱をもって取り組まれている。本所でも、人材育成・教育の取り組みは、一層重要性を増すので、田中さんの見識を存分に発揮していただきたい。

なお、京都経済の発展に長年副会頭として尽力いただき、この度退任された伊藤謙介さんと、道端進さんには、名誉議員に就任いただくこととなった。

また、専務理事は、7月に就任いただいた奥原恒興さんに、引き続きお願いする。

ニュー京商ビジョン発表

(立石会頭から、「ニュー京商ビジョン」の要点を説明。)

*ニュー京商ビジョンについては、以下 URL をご参照ください。

<http://www.kyo.or.jp/kyoto/infor/new-vision.pdf>

記者からの質問事項

■副会頭人事のねらいについて

知恵産業は固有の業界のものではなく、あらゆる産業に関わるもの。自分の業界だけではなく、京都という地域、京都産業全体に対する実績と見識をお持ちの方々をお願いした。

副会頭には部会・委員会を担当いただき、部会長・委員長と連携して、従来の部会・委員会活動に加えて、知恵産業の推進にも手腕を発揮して、中小企業の活性化にリーダーシップを発揮していただきたいと考えている。

■京都の中小企業の現状認識

京都は1200年の歴史の中で常に顧客との接点を維持し、顧客を創造してきた。その伝統ゆえにそれに甘えている部分があることも否定できない。景況については、繊維製造・卸、建設業界が非常に悪化している。そうした状況の中で、新しい顧客創造を図ることによって事業の活性化・再生を図ることが、小さくても元気な企業作りの処方箋だと考えている。

■事務局職員に期待すること

トップダウンで降りてきた仕事を、事務的に“処理する”“こなす”という風土が強かった。しかし、今回のビジョン作りでは、職員が自ら前向きに参画してもらった。短い期間であったが、ボトムアップの風土が芽生えつつある。ニュー京商ビジョンの実現に向けても、職員自らが強い意志を持って、中小企業のサポーターとしての役割を前向きに担って欲しい。

■新副会頭の抱負・意気込みを

(中村副会頭)

ボトムアップの必要性を強く認識している。知恵は、一人ひとりが課題に直面し、真剣に考えることから生まれる。それは、企業においても日本の社会全体においても言えることだ。これまでの経験を生かして、立石会頭を強力にバックアップしたい。

(塚本副会頭)

これまでの京都ブランド推進の取り組みで、京都の都市としての魅力を再認識した。しかし、京

都の中にいると、そうしたブランド価値は、なかなかわかり辛いこともわかった。そうしたブランド価値を京都の皆さんに意識・理解してもらえよう、引き続き京都ブランドの振興に尽くしたい。

（田中副会頭）

女性の副会頭は京都では初であり、大都市圏の商工会議所では、横浜に次ぐと聞いている。顧客、地域、会員に資するような総合的な人材育成のプランを立て、実行に移したい。また、今日的な環境問題、企業の社会的責任のテーマにも積極的に取り組みたい。

以上